

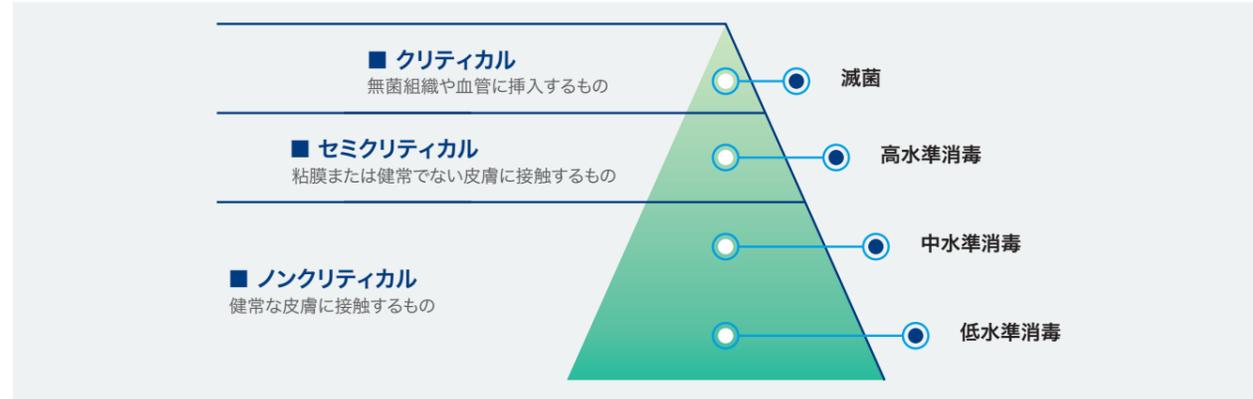
医療関連感染 (HAI: Healthcare Associated Infections)

医療関連感染 (HAI) とは「院内」感染又は「病院」感染とも呼ばれ、医療機関で患者様が原疾患とは別に罹患した感染症のことで患者様の入院時にはもともと存在していなかったものを指します。また、医療従事者などが医療施設内で感染したものも含まれます。*

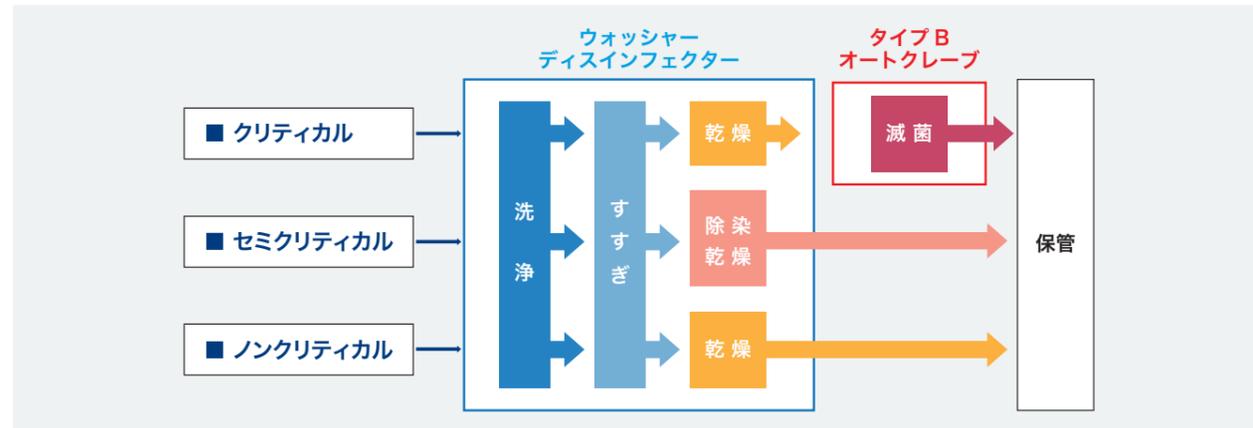
※The burden of health care-associated infection worldwide. WHO, 29 April 2010

医療機関で使用された医療器具の再生処理 (洗浄・除染・滅菌) にウォッシャーディスインフェクターやオートクレーブを用いることは感染対策上とても重要です。

スポルディングの器具分類



器具の再生処理プロセス



洗浄器(ウォッシャーディスインフェクター)のご紹介

ウォッシャー・ディスインフェクター AW-180 中型モデル(154リットル) 医療機器情報 クラス分類: クラスI(一般医療機器) 一般的名称: 器具除染用洗浄器 医療機器製造販売届出番号: 20B2X10010000006 販売名: ウォッシャー・ディスインフェクター AW-180	ウォッシャー・ディスインフェクター AW-150 小型モデル(118リットル) 医療機器情報 クラス分類: クラスI(一般医療機器) 一般的名称: 器具除染用洗浄器 医療機器製造販売届出番号: 20B2X10010000004 販売名: ウォッシャー・ディスインフェクター AW-150	卓上洗浄器 BLUNIX60B 小型モデル(54リットル) 医療機器情報 クラス分類: クラスI(一般医療機器) 一般的名称: 器具除染用洗浄器 医療機器製造販売届出番号: 20B2X00014100009 販売名: BLUNIX ウォッシャーディスインフェクター
--	--	---

ウォッシャーディスインフェクターの詳しい情報、その他小型洗浄器のラインナップは、弊社ホームページよりご覧いただけます。

※商品の色調は印刷のため実物と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
※製品改良のため、仕様・外観が予告なく変更になる場合があります。

発行元 **サクラ精機株式会社**

お問合せ ☎ 0120-037-311

<https://www.sakurajp.com>

東京本社 〒104-0033 東京都中央区新川 1-25-12
tel. 03-3553-8034 fax. 03-3553-8072



HAI up to date Vol.2

日帰り手術専門クリニックにおける ウォッシャーディスインフェクター導入効果

Serving Global Healthcare with Sakura Tradition and Innovation

2022年4月に日帰り手術専門クリニックとして開院した新橋DAYクリニック様では、開院前の準備段階からスタッフ皆様による話し合いを重ね、患者様を安全第一に考えた結果、ウォッシャーディスインフェクター (Washer-Disinfector ; 以下、WD) を導入することになりました。多くのWDメーカーがある中、どのような観点で機種を選定されたのか、また、日帰り手術を行うクリニックにおいてWD導入でどのような効果をもたらすのか。院長 岡村正之先生、看護師 原田里美様、看護師 川口万記子様にお話を伺いました。



岡村 正之 先生
新橋DAYクリニック 院長

ご略歴

国立山梨大学を卒業後、横浜市立大学、国立循環器病研究センターで一般麻酔、心臓手術麻酔、集中治療等を研修。
茅ヶ崎市立病院、藤沢市民病院、戸塚共立第1病院を経て、2022年4月に新橋DAYクリニックを開業、院長に就任。
日本専門医機構認定麻酔科専門医。

本レポートの構成

1. はじめに
 2. 当院における基本姿勢
 3. WDの導入
 4. WDの導入効果
 5. おわりに
- ### 医療関連感染について

1. はじめに

岡村院長：

当院は、2022年4月に開院した鼠径ヘルニア（脱腸）の日帰り手術をメインとしたクリニックです。開院から2年、既に1,000件以上の腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を行っています。(2024年2月現在) 当クリニック開設を機にWD導入を決断しました。今回は、WD設置の検討から導入までの経緯と実際の運用についてご紹介いたします。

2. 当院における基本姿勢

岡村院長：

私は麻酔の専門家として、様々な場で研鑽を積んできた立場ですが、医療で最も大切なことは『患者様の安全を確保すること』です。患者様の安全と安心を守るためには、医療器具の再生処理の品質を維持し、滅菌保証を担保することも大切なことと考えます。それに加え、我々医療スタッフが業務を通じて感染することがない様に対策を施すことで、最終的には医療の質向上につながります。

これは病院規模に関わらず同じことが言えると思います。また、当院では、クリニックであることのメリットを生かし、コミュニケーションを密にとりながら院内全体の感染対策に関する速やかな情報共有と周知を行っています。

3. WDの導入

岡村院長：

欧米諸国では、日帰り手術は手術全体の7割と言われ、年々日帰り手術の比率は高くなっています。これから日本もこうした流れになるものと予想され、当院のような日帰り手術専門クリニックは今後も増えていくと思います。クリニック開院準備の段階から、「少人数の医療スタッフが安全かつ効率的な医療器具の再生処理を行うにはどうすべきか？」を、実際に作業にあたるスタッフの意見を取り入れ検討しました。一般的な病院では業務ごとに担当者があるかも知れませんが、クリニックでは、一人のスタッフがいくつもの役割を同時に担うことになります。スタッフが看護業務に充てる時間を増やし、患者様のケアを充実させるためには洗浄業務の機械化、すなわちWDの導入が必須との結論になりました。WDは、医療器具類に付着した血液などの蛋白汚れを、ジェット水流と洗浄剤の力で落とすことを目的とした、洗浄・熱水消毒・乾燥まで全自動で行える洗浄装置です。一般家庭で使用される食洗器とは全く別物で、再使用可能な手術器具の除染や消毒を用途とする医療機器です。機械洗浄であれば用手洗浄と比べてスタッフの感染リスクを低減できますし、洗浄作業の経験やスキルによって洗浄効果が左右されるリスクも減らせます。一度に多くの器具を一定の品質で自動洗浄でき、洗浄業務に係る労力の軽減、効率化をもたらすと考えました。



岡村 正之 先生

再生処理を行うにはどうすべきか？」を、実際に作業にあたるスタッフの意見を取り入れ検討しました。一般的な病院では業務ごとに担当者があるかも知れませんが、クリニックでは、一人のスタッフがいくつもの役割を同時に担うことになります。スタッフが看護業務に充てる時間を増やし、患者様のケアを充実させるためには洗浄業務の機械化、すなわちWDの導入が必須との結論になりました。WDは、医療器具類に付着した血液などの蛋白汚れを、ジェット水流と洗浄剤の力で落とすことを目的とした、洗浄・熱水消毒・乾燥まで全自動で行える洗浄装置です。一般家庭で使用される食洗器とは全く別物で、再使用可能な手術器具の除染や消毒を用途とする医療機器です。機械洗浄であれば用手洗浄と比べてスタッフの感染リスクを低減できますし、洗浄作業の経験やスキルによって洗浄効果が左右されるリスクも減らせます。一度に多くの器具を一定の品質で自動洗浄でき、洗浄業務に係る労力の軽減、効率化をもたらすと考えました。

当院は、鼠径ヘルニア（脱腸）の日帰り手術専門クリニックです。WDを選定の際、腹腔鏡手術に欠かせない鉗子が洗浄できることが最低必要条件でした。当院はクリニックですから、決して十分な

設置スペースがある訳ではありません。よってコンパクトさが重要でした。その一方で外形寸法のみで機種選定してしまい、処理する医療器具が収納できなければ本末転倒です。従ってチャンバーサイズや、バスケットの寸法などの確認を行い、AW-180を選びました。また、当院はテナントビル内に入居するため、WDから排出される高温排水を流せる耐熱配管の工事が難しく、排水冷却機能が装備されていることも選定における重要なポイントでした。そのほか洗浄、熱水消毒、乾燥まで全自動で行えることはもちろんのこと、操作パネルの使いやすさやプログラムの拡張性（設定変更可能か）なども色々調べました。またWD導入前にはなかなか判りませんが、アフターサービスやユーザーに対する情報提供などのサポートも受けられることも大切な選定要素と考えていました。このように、様々な観点から検討した結果、最終的には現在使用しているWDを導入することになりました。

原田様：

院長先生が仰っておられる、「クリニックであっても品質を維持し、患者様の安全第一」は、私たち現場スタッフにとっても譲れない条件だと考えていました。1日あたりに実施する手術件数が最大数になった場合を見据え、スムーズに安全な滅菌物を供給することが出来、洗浄・滅菌を滞りなく、効率的に処理するにはどうし



原田 里美 様

たら良いか。滅菌保証のガイドラインに沿って決められた作業手順を守り、無駄のない動線、装置の配置などを検討して、院長先生に提案しました。その結果、当院に合ったWDを選定・導入できたことで、スタッフが術後、ストレスなく、無駄なく、効率よく再生処理が行える環境になりました。当院は開院当初と比べて1日あたりの手術件数も増えていますが、手術器具がスムーズに供給できています。理解のある院長先生だからこそ、思い描いていた設備・環境が整備され、患者様の安全を第一に考えた医療提供体制が実現したと思います。



4. WDの導入効果

川口様：

当院は基本4人の看護師が外来、手術、術後管理を担っています。洗浄、滅菌等の業務は、手術の合間の限られた時間で行っています。手術終了後、使用済みの医療器具類を器械台ごと手術室と隣接した材料室へ運び、医療器具の再生処理を行います。鉗子・コード類は浸漬洗浄、手洗い後にバスケットに並べて



川口 万記子 様

WDに入れます。腹腔鏡下鼠経ヘルニア手術といっても患者様によってはヘルニアが大きかったり、両側であったり、癒着が激しかったり、症例によって通常より時間を要する場合があります。そのため、手術の合間で洗浄業務に時間を割くのが難しいこともあります。限られた空間、人員、時間の中で、1日4件の腹腔鏡下鼠経ヘルニア手術が可能になった理由の大きなポイントの1つは、WDが導入されていたことです。浸漬と手洗いだけでは落ちにくい血液汚れなども、WDによって手術2件分の使用済み医療器具を約2時間で自動処理できます。手術日には常にWDはフル稼働しますが、大きなトラブルもなく、適切な機種選定ができたのではと思います。導入当初、WDの運転プログラムが初期設定の標準プログラムであったため、腹腔鏡で使用される鉗子の内腔が十分に乾燥できませんでした。しかし、サクラ精機さんのサポートを受け運転プログラムの設定変更を行い、乾燥不良の問題は解消されました。WDは便利なのですが、決して魔法の箱ではありません。機能・性能をしっかり理解した上で、医療器具の特性に応じた処理方法の検討・確認が必要な場面もあります。その際、サクラ精機さんのような「洗浄・滅菌」に特化した専門メーカーからのサポートはとても心強く思います。



手洗いするのに時間のかかる器具や鉗子の洗浄作業も、WDを使用することで、「予洗」「洗浄」「すすぎ」「熱水消毒」「仕上げ」「乾燥」まで全自動で行うことが可能となり、洗浄業務に要する時間と負担が大幅に削減することができました。医療安全の観点からも、手洗いだけでは落ちにくい血液汚れも、WDによって器材が正しく再生処理され、患者様に安心して手術を受けていただくことができていると考えております。当院はWDの導入によって、安心安全な手術をより多くの患者様に提供できるようになりました。これからも、当院を信頼して手術を受けることを決断して下さる患者様のために、器具の再生処理には最大限の注意を払っていききたいと思います。



5. おわりに (導入をご検討されているご施設に向けたメッセージ)

岡村院長：

医療施設における医療従事者の勤務環境改善に関する改正医療法の規定が施行され、医療従事者の働き方改革が現実に展開されようとしています。当院では医療スタッフが安心して働き続けられる環境づくりを構築し、推進する取り組みをクリニック開院時に実施したことで健康で安全に働き続けられる環境がいち早く整えられたと考えます。当院のような日帰り手術専門クリニックにおけるWDの導入効果は高いと実感しておりますので、是非前向きにご検討してみてください。

